

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームおときちLabo八王子横川		
○保護者評価実施期間	2026年 6月15 日 ～ 2026年 7月 11日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2026年 6月15 日 ～ 2026年 7月 11日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年7月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に寄り添ったきめ細かな支援体制	送迎時や連絡帳、電話等を活用し、日々の様子を丁寧に共有するとともに、急な相談にも可能な限り対応している。保護者との信頼関係を大切に、一緒に成長を支える姿勢を心掛けている。	定期的な個別面談やアンケートを実施し、保護者のニーズをより把握するとともに、相談しやすい体制をさらに充実させる。
2	理科・自然体験を取り入れた特色ある療育	科学実験や自然観察、調理活動など、子どもが「やってみたい」と思える体験型活動を多く取り入れ、楽しみながら学べる環境づくりを行っている。	地域資源や外部施設との連携を深め、より多様な体験活動を提供し、子どもの興味・関心をさらに広げる。
3	一人ひとりに合わせた個別支援	個別支援計画に基づき、子どもの発達段階や特性を踏まえた支援を実施している。言語聴覚士等の専門職とも連携し、多面的な支援を行っている。	職員研修やケース会議を継続し、専門性の向上と支援方法の共有を図り、より質の高い支援につなげる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への情報発信が十分でない面がある	日々の支援は実施しているものの、ホームページやSNS、活動報告等による情報発信が十分ではない。	定期的な活動報告やホームページの更新、写真を活用した広報を充実させ、支援内容を分かりやすく発信する。
2	地域との連携機会がまだ少ない	開所から日が浅く、地域や関係機関との交流機会が限定されている。	学校、相談支援事業所、地域団体との情報交換や合同イベントへの参加を積極的に進める。
3	職員体制・専門性のさらなる向上	少人数体制のため、研修機会や専門職との情報共有に限りがある。	外部研修への参加や事業所内研修を継続し、職員全体の専門性向上と支援の標準化を進める。